アンコール開催のお知らせ

青が誘う（いざな） ウズベキスタン
萩野矢慶記写真展

Enchanted by Uzbekistan Blue:
the Photographs of Haginoya Keiki

ご好評につき、4月1日（土）から5月28日（日）まで再開催いたします。
皆様のお越しをお待ちしております。

Due to the overwhelming popularity, the photo exhibition
"Enchanted by Uzbekistan Blue" will be extended until 28 May, 2023.

休館のお知らせ

横浜ユーラシア文化館・横浜都市発展記念館は、全館空調機更新工事のため、
下記の期間休館いたします。なにとぞご了承のほどお願いいたします。
最新の情報はホームページでご確認ください。

The museum will be closed from May 29th, 2023 until the summer of 2024,
due to the renewal of air conditioners.
Please check the website for the latest information.

http://www.eurasia.city.yokohama.jp/

休館期間 令和5年5月29日（月）～令和6年夏頃（予定）

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
Tel. 045-663-2424　Fax. 045-663-2453

12 Nihon Odori, Naka-ku, Yokohama, Japan 231-0021
Tel. 045-663-2424　Fax. 045-663-2453

開館時間　9:30 a.m.～5:00 p.m.（券売は4:30 p.m.まで）

休 館 日　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は次の平日）
年末年始（12月28日～1月3日）

観 覧 料　一般200円
小・中学生、横浜市内在住65歳以上の方100円
特別展・企画展の観覧料は別途定めます。
毎週土曜日は、小・中学生、高校生は無料です。
「身体障害者手帳」、「愛の手帳（療育手帳）」、「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に手帳をご提示ください。

Hours　9:30 a.m.-5:00 p.m.
(Admission until 4:30 p.m.)

Closed　Mondays (except Holidays) and year-end/New Year's recess

Admission　¥200 for adults
¥100 for primary and Junior high school students, and city residents 65 years old and above

みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口すぐ
JR「関内駅」南口・市営地下鉄「関内駅」
1番出口から徒歩約10分

Zero min. walk from Nihon Odori Sta.
on the Minato Mirai Line.
10 min. walk from Kannai Sta.
on the JR Line or Municipal Subway.

News from EurAsia No. 39　横浜ユーラシア文化館ニュース　第39号　2023年3月31日
企画・編集／横浜ユーラシア文化館　発行／（公財）横浜市ふるさと歴史財団　題字ロゴ／有限会社ボイドシステム
印刷製本／株式会社佐藤印刷所

禁無断転載　©2023 Yokohama Museum of EurAsian Cultures

News from EurAsia
横浜ユーラシア文化館ニュース

SPECIAL ISSUE YMEAC 20th anniversary

アートウォッチング
Art Watching　2

ルリスタン青銅器
Luristan Bronzes

ギャラリートーク
Gallery Talk　4

最近5年間の展覧会とイベント
Exhibitions and Events in the Last 5 Years

横浜・この街に生きる ― 多文化共生都市の主役
Diversity of Yokohama　6

第2回　ナリン・C・アドバニ
浜っ子インド人ベンチャー企業投資家
No.2 Nalin C. Advani
Yokohama born, Indian Origin Venture Capitalist

蔵品紹介 ―新収蔵資料―
The YMEAC Collection:
Recent Additions　8

実施報告　9

第三回
横浜ユーラシア スタチュー・ミュージアム
3rd Yokohama EurAsia Statue Museum
10

横浜中華街 "アウトリーチ展示"
Yokohama Chinatown Outreach Exhibition
11

開館20周年　開館祭
20th Anniversary Festival

No.39

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

Luristan Bronzes

ルリスタン青銅器

竹田多麻子　TAKEDA Tamako

動物装飾ピン
長 24.5 cm
Bronze Pin with Animal Design
L. 24.5 cm

イラン　ルリスタン地方
紀元前 1 千年紀前半
Iran, Luristan
Early 1st millennium B.C.E

長いピンの先端に様々な動物が表されています。大きくカーブしている角をもつのが山羊で、長い耳と丸い目、あごひげがあります。その下には角をもつ動物の頭が 2 つ並び、今にも山羊の背中をよじ登るような姿勢でもう一頭の獣が前脚をかけています。何ともユーモラスで独特なデザインをしたこの金属製品はルリスタン青銅器と称されるものの一つです。

ルリスタンとはイラン西部のザグロス山脈の山中に位置するルリスタン地方のことをさし、ルリスタン青銅器はそこから出土する青銅器の名称です。剣、戦斧などの武器や容器だけでなく、次頁にあるような装飾性の高い馬具や不思議な形状をした先端飾も発見されています。1920 年代末以降、その美術的な価値を評価されてルリスタン青銅器はヨーロッパの骨董市場に大量に出回りましたが、正規の発掘調査が少なく、謎の多い青銅器文化として注目されました。その後の発掘調査により、ルリスタン青銅器が古墓に埋葬されていた副葬品であることが明らかになりました。ルリスタン青銅器文化の最盛期は紀元前 1 千年紀前半だと考えられています。しかし、この青銅器を製作し使用したのがどのような人々だったのか、製作の目的は何であったのかなど、様々な歴史的背景はいまだもって解明されていません。

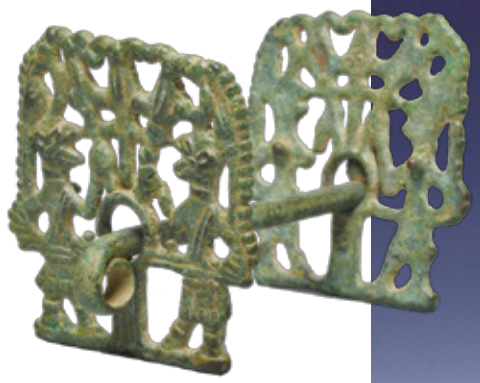
これらのルリスタン青銅器は、当館のコレクションの礎を築いた東洋学者江上波夫によって収集されたものです。
（YMEAC 主任学芸員）

Various animals are represented on the tip of a long pin. This metal artifact, with humorous and unique figurative expression, is called Luristan Bronze. Luristan Bronzes are the bronze objects excavated from Luristan, the mountainous area in western Iran.

Luristan Bronzes consist of highly decorative horse-bits and the curiously shaped Luristan finials, which are shown on the next page, in addition to the vessels, swords, battle axes, and other kinds of weapons. Large quantities of Luristan Bronzes appeared on the European antique markets in the late 1920s. Because few formal excavation had been conducted by then, the mysterious bronze culture attracted attention. Subsequent excavations revealed that the Luristan Bronzes were burial accessories buried in ancient tombs. It is thought that golden day of the bronze culture of Luristan was the first half of the 1st millennium B.C.E. However, various questions remain unanswered: who made and used these bronze objects, what was the purpose of their production, and so on.

The Luristan Bronzes shown here were collected by the orientalist Namio Egami, who laid the foundation of the YMEAC collections.

神面付飾板
幅 9.4 cm　高 7.6 cm
Bronze Ornament with
"Master of Animals" Design
W. 9.4 cm　H. 7.6 cm
環の上部には目と頬が少し飛び出て、頭に角のある神と思われる像の顔が表され、左右の猛獣は中央の神に従う随獣であるように見える。



鏡板付轡（くつわ）
長 16.9 cm
幅 9.8 cm
高 10 cm
Bronze Horse-Bit with Cheekpieces
L. 16.9 cm　W. 9.8 cm　H. 10 cm
轡は馬の口にはめて馬を制御するための道具。馬の口に入れる棒状のものをハミ、ハミを固定させるためにその左右に馬の頬を挟むように取り付ける板を鏡板と呼ぶ。この鏡板には横向きの神像が左右対称に配されている。

動物装飾先端飾
長 15.8 cm
Bronze Finial with Facing Animals
L. 15.8 cm
動物の装飾品の上部からピンがさしこめる。テントや馬車の支柱、あるいは旗竿の先端に取り付けて飾りとして使用されたと考えられている。下部の壺形部分には補修の跡が見られる。

最近５年間の展覧会とイベント

2003年3月15日に横浜都市発展記念館とともに開館した横浜ユーラシア文化館は、2023年の今年、開館20周年を迎えました。横浜市民のみなさまをはじめ、これまで当館を支えて下さったすべてのみなさまに、心から御礼申し上げます。

SPECIAL ISSUE YMEAC 20th anniversary

特別展・企画展 Exhibitions

2019 1月19日（土）～3月31日（日）
19 Jan. – 31 Mar.

早稲田大学會津八一記念博物館開館20周年
横浜ユーラシア文化館開館15周年記念企画

博士の愛した中国陶磁
—美と技の5000年—

Aizu Museum's 20th and YMEAC's 15th Anniversary Exhibition
Chinese Ceramics from the Professors' Choice Collections: 5000 Years of Beauty and Technique

2019 4月13日（土）～6月30日（日）
13 Apr. – 30 June

開港百六十周年記念

装いの横浜チャイナタウン
—華僑女性の服飾史—

Clad in History and Glamour: Chinese Women and Their Clothing in Yokohama Chinatown

2019 10月5日（土）～12月22日（日）
5 Oct. – 22 Dec.

サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年
—「みられる私」より「みる私」

Exploring 50 years of Livelihood and Landscape Change in Wadi Fatima, Saudi Arabia: Ethnographic Collections of Motoko Katakura, a Japanese Female Cultural Anthropologist

2020 6月13日（土）～7月12日（日）
13 June – 12 July

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展

しきしまの大和へ
—アジア文華往来

Ancient Yamato: A Glorious Narrative of Japan and Asian Civilizations

2020 10月3日（土）～12月27日（日）
3 Oct. – 27 Dec.

杏咲く頃
— 絵筆と歩いたシルクロード
小間嘉幸絵画展

Koma Yoshiyuki: Landscape and People of the Silk Road

2021 4月10日（土）～7月4日（日）
10 Apr. – 4 July

横浜中華街160年の軌跡
—この街がふるさとだから。

Yokohama Chinatown, 160 years history.

2021 10月16日（土）～12月26日（日）
16 Oct. – 26 Dec.

オホーツク文化
—あなたの知らない古代—

Okhotsk Culture: Ancient History You Didn't Know

2022 11月17日（木）～2023年2月12日（日）
17 Nov. – 12 Feb. 2023

江上波夫没後20年

ユーラシアへのまなざし
—造形の美と技

Eyes on EurAsia: Beauty and Technique of Artifacts

2003年から2018年までについては、「News from Eurasia 横浜ユーラシア文化館ニュースNo.29開館15周年記念号」をご覧ください。
当館ホームページからご覧いただけます。
www.eurasia.city.yokohama.jp/

The year 2023 marks the 20th anniversary of the Yokohama Museum of EurAsian Cultures. We extend our heartfelt thanks to everyone's continued support.
Here are the Exhibitions and events held in the last 5 years.You can see those from 2003 to 2018 on *News from EurAsia No.29.*

写真展 Photo Exhibitions

2022 4月28日（木）～5月29日（日）
28 Apr. – 29 May

ウクライナ支援緊急企画写真展

姉妹都市オデーサに思いを

The Special Charity Photo Exhibition for the relief of Ukraine
Thinking of Odessa: the sister city of Yokohama

2022 11月26日（土）～2023年2月26日（日）
26 Nov. – 26 Feb.2023

アンコール開催
2023年 4月1日（土）～5月28日（日）
1 Apr. – 28 May 2023

日本・ウズベキスタン外交関係樹立30周年記念

青が誘うウズベキスタン
萩野矢慶記写真展

Enchanted by Uzbekistan Blue: the Photographs of Haginoya Keiki

アウトリーチ展示 Outreach Exhibitions

2022 9月23日（金･祝）～10月10日（月･祝）
23 Sep. – 10 Oct.

横浜中華街街なかミュージアム
会場:Chinatown80 Hall

Yokohama Chinatown, 160 years of history held in the middle of Chinatown

2023 1月21日（土）～終了時期未定
21 Jan. –

ホテル de ミュージアム

横浜中華街歴史回廊
会場：ローズホテル横浜２階

Corridor of the History of Yokohama Chinatown at Rose Hotel Yokohama

横浜ユーラシア スタチューミュージアム Yokohama EurAsia Statue Museum

2020 11月21日(土)・22日(日)
21 – 22 Nov.
第1回

2021 11月20日(土)・21日(日)
20 – 21 Nov.
第2回

2022 5月28日(土)・29日(日)
28 – 29 May
in ハマフェス

2022 11月19日(土)・20日(日)
19 – 20 Nov.
第3回

横浜・この街に生きる

多文化共生都市の主役 Diversity of Yokohama

第2回

伊藤泉美 ITO Izumi

当館旧第一玄関前で　2023年1月
撮影：横山和江
In front of YMEAC, former Yokohama Telephone Office.
Photo by Yokoyama Kazue
当館の前身、横浜市外電話局は家の眼と鼻の先で、
子供の頃はこの辺りが遊び場だった。
交換手のお姉さんたちの仕事を見に来た記憶もある。

ナリン・C・アドバニ

浜っ子インド人ベンチャー企業投資家

Nalin C. Advani
Yokohama born, Indian Origin Venture Capitalist

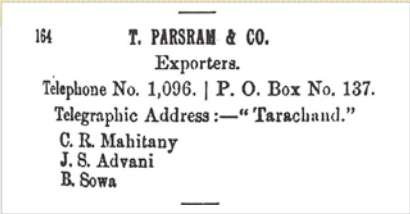
ネフューズ・インターナショナル取締役、
BIPROGY株式会社社外取締役、
横浜インドセンター副会長
Director, Nephews International Inc.,
Director, BIPROGY Inc.,
Vice President, Yokohama Indian Center.

生まれたのは元町の産院、育ったのは山下町、浜っ子インド人である。アドバニ家のルーツは、現パキスタン領スィンディー（シンド）州である。スィンディー州を出自とする人びとは世界各地にネットワークを広げてビジネスを展開することで知られている。アドバニ家の横浜との関係は 1900 年頃、明治まで遡る。ナリンさんの母方の家が、山下町で貿易商タラチャンド・パースラム商会を営んでおり、父方の祖父 G.B. アドバニがその会社で働いていた。1947 年、印パ戦争が起こると、スィンディー州のヒンドゥー教徒の多くと同様、アドバニ家もインドへと逃れた。1952 年、父チャンドル・G・アドバニは、幼い頃に話を聞かされていた横浜を訪れた。ちょうどその頃、横浜では市役所などが戦前の横浜貿易の一翼を担ったインド商人の呼び戻しに力を入れていた。

ナリンさんは 1965 年、元町の産院で産声をあげた。家は山下町 90 番地、現ロイヤルホール横浜の所在地で、シルク通りに面した建物だった。その頃、家の近所にはインド系、中国系、ノルウェーやデンマークなど北欧系の人びとが暮らしていた。母の日々の買い物は、野菜や魚は中華街の市場通り、鶏肉は元町の鈴音と決まっていて、砂糖に小麦粉、石鹸などの日用品は、中華街のタイガー商会が届けてくれた。

幼稚園から高校までの 14 年間、山手の横浜インターナショナル・スクールに通った。家の近くのバス停から乗れば一本で行けて便利だった。高校卒業後は、叔父一家が暮らす米国のウィスコンシン州のローレンス大学芸術学部で、デジタル映像について学んだ。

1988 年に大学を卒業して日本に戻り、父の貿易会社を手伝うことになった。当時会社では日本製電化製品のインド輸出を手掛けていたが、日本の大手商社がインド市場に進出を始めた時期で、中小企業のこの分野の先行きは芳しくないと考えた。1990 年前後は、ちょうど日本社会にパソコンが広まり始めた時期だった。その時流の変化をとらえ、ナリンさんは外資系ソフトウエア会社の日本法人の立ち上げを支援する仕事を始めた。以来、アメリカ、シンガポール、インド系資本の日本法人の立ち上げ・立て直しを行い、現在はベンチャー会社 25 社への投資活動などを手掛けている。



164 T. PARSRAM & CO.
Exporters.
Telephone No. 1,096. | P. O. Box No. 137.
Telegraphic Address :—" Tarachand."
C. R. Mahitany
J. S. Advani
B. Sowa

タラチャンド・パースラム商会の記載
T. PARSRAM & Co. *The Japan Directory for the Year 1907*
ナリンさんの祖父が働いていたタラチャンド・パースラム商会。ここにある J. S. Advani は直系ではないが親戚にあたる人物。

日本生まれで日本の風土・文化・習慣に慣れ親しみ、デジタル・テクノロジーに詳しく、英語と日本語に堪能で、そして、世界を股にかける商才民族・スィンディーであるナリンさんだからこそ担える仕事といえる。ナリンさん曰く「変わることは進化であり良いこと。でも文化や価値観など、変えちゃいけないこともある。」

コロナ以前は、週ごとに、インド、韓国、日本、シンガポールを飛び回っていたが、現在は隔月で横浜山手とシンガポールの家で暮らしている。妻サプナさんはシンガポールで会社経営に携わり、一人娘のサナさんは父の母校横浜インターナショナル・スクールに通っている。地元愛が強く、横浜青年会議所の理事長を務めたこともあり、現在は横浜インドセンター副会長や 2027 年国際園芸博覧会協会（横浜花万博）理事などを務める。ナリンさんにとって横浜はふるさと、「終の棲家」なのである。（YMEAC 副館長）

参考文献：横浜開港資料館・横浜ユーラシア文化館編『横浜におけるインド人のあゆみ』2013 年、伊藤泉美「横浜におけるインド人の歩みーアドバニ家の足跡を中心に」『開港のひろば』117 号、2012 年 7 月、横浜開港資料館。

Nalin C. Advani was born in Yokohama in 1965. His family has its root in the Sindh region of India (now Pakistan). The Sindhi, an ethno-lingustic community, is famous for its extensive transcontinental trade network. After the India-Pakistan War of 1947, Mr. Chandru G. Advani, Nalin's father, came to Yokohama, where his ancestors established a trading company named T. Parsram & Co. around 1900.

Nalin has a lot of happy memories of his childhood. His mother used to go to the market in Chinatown to buy vegetables and fish, and to Suzuoto in Motomachi to buy chicken. Indians, Chinese, Danish, and Norwegian people lived in his neighborhood. In those days, Yamashita-cho still had an atmosphere of the cosmopolitan city.

After graduating from Yokohama International School, he entered Lawrence University in the Wisconsin state of the U.S.A. and specialized in digital arts. In 1988, he came back to Yokohama and entered his father's trading company, which engaged in exporting Japanese electronic products to India. However, the time was changing. Nalin challenged a new business to support American software companies to establish their Japanese branches. Around 1990, personal computers began to spread into Japanese society. He caught the change of the tide and has succeeded to support many foreign companies to establish their businesses in Japan. We can say that his unique talent helped his success in this business; he knows Japanese cultures and customs well, specializes in digital business, speaks both Japanese and English fluently, and has a sense of business inherited from his Sindhi ancestor.

His wife, Sapna, runs a consulting company in Singapore, and his daughter Sana goes to Yokohama International School where her father graduated from. Before the Covid19, he stayed in India, Korea, Japan, and Singapore week by week. Now he moves between the houses in Yokohama and Singapore every month. He loves Yokohama well and takes important roles in this city, such as Vice President of the Yokohama Indian Center, the Board Member of the 2027 International flower Expo, and so on. For Nalin, Yokohama is home sweet home.

The YMEAC Collection: Recent Additions [October 2022 to March 2023]

蔵品紹介 ー新収蔵資料ー

2022年10月から2023年３月までにご寄贈いただきました資料をご紹介します。ご寄贈いただきましたみなさま、ご寄贈いただくに当たりご協力を賜りましたみなさまに篤く御礼申し上げます。なお、出版物につきましては、点数が多いため本誌ではご紹介しておりません。整理が終り次第、熟覧に供する出版物はインターネットの目録に掲載し、学習教材として受贈いたしました出版物は、２階展示室内ライブラリーでご利用いただいております。どうぞご活用ください。

※ライブラリーの図書は入れ替えがありますのでご了承ください。

（敬称略）

収蔵番号	YMEAC-22-0002～0012

羅玉蘭氏服飾資料

点　数　11 点

地　域　香港など

寄贈者　渡辺貴美氏

旗袍
1920年代～ 1930年代
香港蚨蝶商店製
Chinese dress
From 1920s to 1930s
Hong Kong
Donated by WATANABE Kimi

実施報告

第三回 横浜ユーラシア スタチュー・ミュージアム

3rd Yokohama EurAsia Statue Museum

主催：横浜ユーラシア文化館
共催：横浜都市発展記念館、横浜開港資料館
協力：スタチューパフォーマンス協会、日本大通り活性化委員会、横浜中華街発展会協同組合

高橋健　TAKAHASHI Ken

スタチュー集合写真

第三回横浜ユーラシア スタチュー・ミュージアムを2022年11月19日（土）・20日(日)に実施しました。日本大通りと横浜中華街のポイントに各日16組、のべ21組のスタチューが出演しました。「赤い靴の女の子」をはじめとする常連組に加えて初出演のスタチューも8組おり、全国各地から多彩なスタチューが集う路上の「ミュージアム」を実現できました。

19日は幸い晴天に恵まれましたが、20日の午後には雨が降り、一部のプログラムは横浜ユーラシア文化館・横浜都市発展記念館および横浜開港資料館の屋内で実施しました。屋内に設置することによって、むしろより「ミュージアムらしさ」を楽しんでいただけたのではないかと思います。

スタチュー・ミュージアムの開催に向けたクラウドファンディングを行い、411,500円のご支援をいただきました。ご支援いただいた皆様に、改めてお礼を申し上げます。

（YMEAC 主任学芸員）

赤い靴の女の子

横浜中華街 “アウトリーチ展示”

Yokohama Chinatown Outreach Exhibition

伊藤泉美　ITO Izumi

横浜ユーラシア文化館では「街に出ていく博物館」を合言葉に、街の中で地域の皆様と協働して博物館活動を展開し、地域の文化振興に貢献することをめざしています。

横浜中華街は観光地・飲食街として有名ですが、この街が横浜開港・関東大震災・横浜大空襲を経た、160 年あまりの波乱万丈の歴史を有していることはあまり知られていません。横浜ユーラシア文化館では下記の二つのパネル展示を中華街で行いました。（YMEAC 副館長）

YMEAC extends its activities outside the museum under the motto, “Go beyond the museum”, cooperating with various local organizations. This season, we held two special panel exhibitions focusing on the history of Yokohama Chinatown, just in the middle of Chinatown. Yokohama Chinatown is famous as a sightseeing place, but few people know about its over 160 years of dramatic history. We hope that our activities will promote better understanding on the history of Yokohama Chinatown and contribute to the development of local cultures.

横浜中華街 街なかミュージアム　外観

横浜中華街 街なかミュージアム

2022年9月23日（金・祝）から 10月10日（月・祝）
主催：横浜ユーラシア文化館
共催：横浜中華街発展会協同組合
協力：横浜開港資料館

Yokohama Chinatown, 160 years of history held in the middle of Chinatown

横浜中華街は、幕末の開港と外国人居留地（現：山下町）の設立によって形成された街です。その後、大正の関東大震災や昭和の戦災を乗り越え、戦後には観光地として飛躍を遂げました。横浜中華街は横浜の近代の歴史を体現する街であるとともに、国際都市横浜の多文化共生社会のシンボルでもあります。

この街の160年の軌跡を様々な歴史写真で紹介する、期間限定の「横浜中華街 街なかミュージアム」をChinatown80ホールで開催しました。中華街今昔場所クイズ、横浜中華街の160年：幕末明治から現代、横浜華僑の学び舎、横浜華僑の仕事：洋裁、料理、ピアノ製造、漢方薬局、中華街の日本人、華僑女性の装いなどについて、写真資料約100点、現物資料約10点で紹介しました。18日間の開催期間中に1万9000人近くの方々が来場されました。

多くの観覧者で賑わう会場

ホテルdeミュージアム 横浜中華街　歴史回廊

2023年1月21日（土）から開催中
主催：ローズホテル横浜・横浜ユーラシア文化館
協力：横浜開港資料館

Corridor of the History of Yokohama Chinatown at Rose Hotel Yokohama

「横浜中華街 街なかミュージアム」の開催後、中華街の歴史に関する常設の展示スペースを設けたいとの思いを同じくするローズホテル横浜と横浜ユーラシア文化館が企画し横浜中華街で初の常設展示スペースを開きました。ホテルのコリドー（回廊）を活用したパネル展示です。観光、食事、修学旅行などで中華街を訪れた際には、是非お立ち寄りいただき、歴史という中華街のもう一つの魅力に触れていただければ幸いです。

展示会場

テープカット

開館20周年 開館祭

20th Anniversary Festival

高橋健　TAKAHASHI Ken

コロナ禍のために中止が続いていた開館祭ですが、今年の2月11日（土・祝）、4年ぶりに開催することができました。久しぶりに中庭にはゲルが登場！日本モンゴル協会の皆さんのご協力により、ゲルの設営や解説を行いました。情文プラザでは田岡峰樹さんによるホーミー＆馬頭琴の演奏会も行われました。（YMEAC 主任学芸員）

馬頭琴の演奏

ゲルの組み立て